

<今こそ絆！復興事業 vol.1>

平成28年度
熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
研修会報告書

～クラブから盛り上げよう!!熊本地震からの復旧・復興にむけて～



日時	平成28年10月8日(土)午後1時～午後5時
場所	菊陽町光の森町民センター「キャロツピア」
主催	熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 (SCS火の国クラブネット)
後援	熊本県教育委員会 公益財団法人熊本県体育協会

＜ 今こそ絆！復興事業 vol.1 ＞

平成28年度熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会研修会開催要項

～クラブから地域を盛り上げよう!!熊本地震からの復旧・復興にむけて～

- 1 目的：研修会を通じて、総合型地域スポーツクラブの運営に関する知識やノウハウを身につけ、各クラブの運営に役立てる。また、各クラブの情報を交換、共有する。
- 2 主催：熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- 3 後援：熊本県教育委員会、公益財団法人熊本県体育協会（予定）
- 4 期日：平成28年10月8日（土）午後1時から午後5時
- 5 会場：菊陽町光の森町民センター（キャロップピア）会議室
〒869-1108 菊陽町光の森2丁目1番地1 TEL 096-237-6555
- 6 対象者：県内総合型地域スポーツクラブ関係者
- 7 申込方法：別紙申込書に必要事項を記入のうえ、9月23日（金）までに担当クラブ事務局あてメールにてお申込ください。
- 8 申込先：NPO法人クラブきくよう（担当：福山光子）
〒869-1103 菊池郡菊陽町久保田 2598
TEL:096-233-1520 Mail: office@sports-kikuyo.jp
- 9 定員：130名（先着順）
- 10 参加費：熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブ 無料
総合型地域スポーツクラブ設立準備団体関係者 無料
熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会非加入クラブ 500円（1人）

11 日程及び内容：

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:15	開会式
13:15～16:30	・研修 「緊急事態！あなたならどうする？～熊本地震、運命のクロスロード～」 ながすクロスロード研究会 徳永伸介 氏 ・講演 「復興は生活ではなく、心」 NPO法人総合型りくぜんたかた アシスタントマネジャー 戸羽理智 氏
16:30～	閉会式

講師プロフィール

【徳永 伸介】

長洲町に在住し、町の消防署に勤務されている。

また、小中学生を対象に、サッカーやフットサルのコーチを務められる他、NPO法人長洲にここクラブの会員としても、地域スポーツ振興に関わっておられる。

なお、長洲町の防災ボランティアグループ（NDF）や「ながすクロスロード研究会」に所属されており、町内外の防災活動や熊本地震の復興支援活動にも関わられていることから、様々な防災企画や研修の講師を数多く勤められている。

《所持資格》

日本サッカー協会公認C級コーチ
救急救命士
防災士



【戸羽 理智】

東日本大震災後、総合型りくぜんたかたアシスタントマネジャーとして勤務されている。

また、岩手県ジュニア選抜チームコーチ（バレーボール）を4年務められている。

なお、日本女子体育大学を卒業され、その後、岩手県内の中学校臨時講師（保健体育）として勤務された。

結婚後、仕事をしながら地元のバレーボールスポーツ少年団の指導10年、中学校外部コーチ5年務められた経歴をお持ちである。

《所持資格》

教員免許



一日 程

1 開会式 (13:00～13:15)

(1) 開 会

- (2) 主催者挨拶 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
副会長 山本 光夫



皆さんこんにちは。

私、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の副会長を仰せつかっております山本光夫と申します。

本日は、御多用な中、平成 28 年度熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会研修会に御参加いただき、誠にありがとうございます。また、日頃からそれぞれのお立場でクラブへの御理解・御支援を頂いておりますことを厚く感謝申し上げます。

さて、本連絡協議会では、総合型地域スポーツクラブの運営に関する知識やノウハウを身につけ、各クラブの運営に役立て、更に、各クラブの情報を交換、共有することを目的に研修会を開催しております。

今回の研修会のサブタイトルは、「クラブから地域を盛り上げよう!!熊本地震からの復旧・復興にむけて」となっております。

この度発生した「熊本地震」により、本県は甚大な被害がありました。本日御参加の皆さまや関係者の中でも、多くの方が被災されたかと思えます。また、各クラブの活動にも大きな影響が出ているかと思えます。本協議会としても、この震災から学ぶべきこと、今後につなげていくべきことは何か、情報共有していく必要性を感じ、「今こそ絆！復興事業」の第一弾として、本日研修会を開催することとなりました。

この度、講師として、ながすクロスロード研究会の徳永様、そして、はるばる岩手県からNPO法人総合型りくぜんたかたの戸羽様にお越しいただいております。

御参加の皆さまにおかれましては、今回の研修内容を、今後のクラブ運営に活かしていただければと思います。

最後になりましたが、本研修会の開催にあたり、快く講師をお引き受けいただきました講師の方々をはじめ、企画から開催準備に至るまで御尽力をいただきました北ブロックのクラブ関係者の皆様に心から感謝申し上げます、主催者のあいさつといたします。

2 研修 (13:15～14:45)

(1) 内 容 「緊急事態！あなたならどうする？」
～熊本地震、運命のクロスロード～

(2) 講 師 ながすクロスロード研究会 徳永 伸介 氏



【プログラム】

- 13:15 ファシリテーター紹介
- 13:20 クロスロードの説明
- 13:30 クロスロード体験
- 14:10 休憩
- 14:15 ファシリテーター体験「クロスローダー育成」
- 14:45 振り返り
- 14:50 終了

【災害の歴史を振り返る】

阪神淡路大震災

2014年 広島土砂災害

2012年 北部豪雨災害(九州)

2011年 東北大震災

2004年 中越地震 ⇒ 中越地震の復興が熊本震災の復興のお手本になるのでは？
長洲町でも、1792年に島原大変肥後迷惑の大津波があっている。

【クロスロードの説明】

5人1組になり、質問に「YES」「NO」で答え、そのカードを出した意見を一人ずつ述べる。

Q. あなたは「救急隊員」です。

ガレキの下から家族が救出された。父親と母親は重症だが、手術すれば助かりそうだ。
一方、子どもは心肺停止状態。両親から運びますか？

YES (する) or NO (しない)

A グループの答え

- 助かる方から運ぶ
- 助かる命から運ぶ
- 心肺停止状態だけど、助かる可能性もあるので子どもから助ける
- やるだけのことをやる。

【徳永氏の答え】

救急救命隊の場合は「助かる命から」と決まっているため、この場合は両親から運ぶ。

クラブの活動中で何かあった時の対応はできていますか？

自助、公助、共助の役割が大切なのではないのでしょうか？

Q. あなたは「避難所運営担当」です

ここには避難者が3000名いる。

現在、2000食分の非常食が確保できた。以降の見通しは今のところない。

非常食を配布しますか？

YES (する) or NO (しない)

A グループの答え

- 実際、益城でも最初は人数分なく、後で余る事になり食料を破棄した。
- 優先順位を決める。(子ども、お年寄り)
- 実際に、食の問題は実際難しかった。
- 食料がない分、自宅の冷蔵庫にある物を持って来たりして分けることもできたかも？
- 食料がいきわたらないところを、実際に車で移動して行政に教えるなど、行政にできない事をしていた。

—休憩—

休憩後は、別の方と6人1組になり後半戦をはじめる

後半は、判断力を問われるゲーム。

何が正解で何が不正解かがなく「モンモン」している状態がこのゲームの良いところ。

1人がファシリテーターになり進めていく

問題全部で6問。それぞれで答える。

【質疑応答】

Q1. クロスロードの問題はいくつありますか？

A1. クロスロードは、問題が何種類もあり、簡単につくる事も出来る。

Q2. ファシリテーターになるにはどうしたらいいですか？

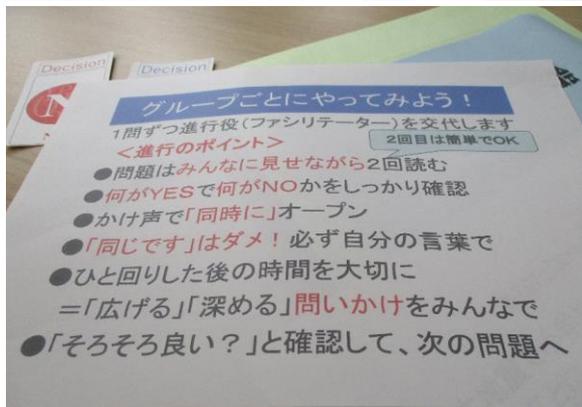
A2. 只今、熊本でもファシリテーターの養成コースを作る予定でいる。

(クロスロード研修の様子)



集計表

順	問題	YES	NO	メモ
3	救援物資が余った。焼く？	1	4	1人だけ焼く
2	インフルエンザ流行！自宅に戻る？	1	4	4人全員
5	津波まで20分 助ける？	3	2	2人だけ助ける
1	深夜の避難勧告！すぐ避難する？	3	2	3人だけ
4	愛犬モモも避難所へ連れて行く？	2	3	2人だけ、3人だけ
6	非常持ち出し袋 開ける？	3	2	3人だけ、2人だけ



3 講演 (15:00～16:30)

- (1) 演 題 「復興は生活ではなく、心」
(2) 講 師 NPO法人総合型りくぜんたかた
アシスタントマネジャー 戸羽 理智 氏



○災害前

陸前高田市体育協会は、「総合型地域スポーツクラブ」について話し合いを重ねていたが、町ごとの体育協会活動が活発だったこともあり、立ち上げには至らなかった。

○3月11日

東日本大震災の被害により、町は壊滅状態となった。

陸前高田市は人口 23,302 人のうち死者 1,602 人、行方不明者 205 人、合計 1807 人が命を失った。

運動施設も、震災前は、野球場やスポーツドーム、B & G プールや市内の小中学校の施設等たくさんあったが、震災後は**スポーツドーム**だけだった。

○震災で

家族や親戚を失った人。友達を失った人。家や仕事を失った人など、様々な境遇の人たちが、日々の生活を送るだけで精一杯だった。

○人間らしい生活とは？

日常が戻るにつれ、「衣食住」を確保されることではなく、芸術やスポーツ等による「心の潤い」を求める気持ちを持ちながら生活することではないかと思うようになった。

○総合型りくぜんたかたの設立

スポーツをしたい！という子どもたちの声にこたえ、「だれもが、いつでも集える場・機会をつくりたい！」

平成23年11月にクラブを設立し、平成24年4月に法人格を取得した。

○思いが大きく

あれもしたい・・・これもしたい・・・と背伸びをしたが、指導者もいない、場所がない、人が集まらない。そして、地域の人からは、交通手段がない、時間がないとの声が挙がってきた。また、一番の問題は、総合型クラブが知られていない状況だった。

○「ない」が先行

しかし、会員から「今自分たちができる事をコツコツと小さくてもやり続けることが大事なのは」との声があった。

○考え方を試してみる

人が集まる、来てくれるのを待つのではなく、出向くことを考えた。

「玉入れタイムレース」「ノルディックウォーキング」「水泳教室」を中心に活動した。

○震災から5年

まだまだ工事が行われており、色々な計画が描かれ、市の中心となる商店街ができることとなっている。

○そしてクラブは

会場が手狭になるほど参加者が増大している。

○まとめ

この5年間、参加者と接することで心の変化を感じとることができた。

そして、「復興」とは、町ができ、生活が元に戻った時ではなく、地域の方々が前向きに自ら活動しようとする「気持ち」を持った時ではないかと思う。

—講演後、玉入れタイムレースの体験—

(講演・玉入れタイムレース体験の様子)





(タイム順位)

チーム名	タイム	順位
中央ブロック	2分08秒67	7位
北ブロック①	1分56秒01	5位
南ブロック①	1分47秒71	4位
北ブロック②	1分38秒71	1位
南ブロック②	1分41秒20	2位
北ブロック③	2分05秒28	6位
事務局+α	1分46秒78	3位

Q 玉入れタイムレースは、誰でも参加できましたか。

A 杖をついた高齢者の方も参加されました。子どもから高齢者までできます。

Q 震災後の助成金などはありましたか。

A 被災地に対して、スポーツ振興センターの助成金がでました。

4 閉会式 (16:30～)

(1) 閉会

〈はじめに〉

平成23年3月11日、私たちは東日本大震災を経験し、尊い命、全ての物を失ってしまいました。そこから自分たちの生活を立て直すこと、それだけに精一杯の毎日を過ごしました。取りあえず最低限の生活に必要な水・食料の確保そして衣服、最後に住まい。今の自分を見つめ直すことが出来るようになったとき、心も身体も凝り固まっているように感じました。

「このままで良いの？」

「市再建を何もせずただ黙って待っているだけでいいの？」

体育館もグラウンドも無い環境だけれど知恵をだし何かスポーツのキッカケ作りがしたい。

- * 取り掛かりやすく
- * 場所をとらず
- * 時間もかからず
- * 笑顔になれる

そこで考え出したのが

『**玉入れタイムレース**』です。

玉入れタイムレースとは

- 1、誰でも1度はやったことがある。
(運動会の種目に必ずある。)
- 2、個々に負荷を変えられる。
(歩く・走る・ジャンプする・回る等)
- 3、競技スポーツ的要素も味わえる。
(タイムレースなので、タイムにこだわり作戦を立てたり、緊張感を味わえる。)
- 4、コミュニケーションができる。
(あえてバトンタッチを手と手で行うことで、コミュニケーションが芽生え、和気あいあいの中楽しめる。)



用具・配置

玉入れ(2m15cm)、玉(30個)、スタートライン、ストップウォッチ、記録用紙、ペン、巻尺(または3mの紐)

チーム構成

1名～10名以内

競技方法

- ①スタートラインに競技順に縦に並びます。
- ②1人1個ずつ玉を持ちます。
- ③スタートの合図で1番目の人が玉入れまで行き、玉を入れます。
- ④玉が入ったらスタート地点に戻り2番目の人と手と手でバトンタッチし玉を入りに行きます。
- ⑤リレー方式で30個目の玉を入れるまで繰り返します。
- ⑥30個目の玉を入れたらスタート地点に戻りゴール。タイムを測定します。

守ってほしい事

- * 手と手でバトンタッチしてからスタートする。
- * 玉は必ず1個だけ持つ。
- * 玉が入らなかった場合
 - (1)拾って入るまで挑戦する
 - (2)拾って次の人とバトンタッチをして次の順番を待つ。



毎日が
チャレンジデー

玉入れタイムレース ルールブック



NPO法人 総合型
りくぜんたかた
〒029-2206 陸前高田市米崎町字松峰92-1 南ササキスポーツ内
TEL 0192-47-4720・FAX 0192-54-2892
E-mail: sogogata.rikuzentakata.rt@gmail.com

facebook「総合型りくぜんたかた」で検索してください。
このパンフレットは東北ろうきん復興支援助成金を
いただき作成しました。

NPO法人 総合型
りくぜんたかた